

声 明 文

「内閣総理大臣は、日本学術会議の推薦する会員候補者6名を任命しなかった理由を説明せよ。」

2020年10月15日 神戸大学教職員組合有志

日本学術会議は、権力が科学を軽視し、学問の自由を制約し、その幅広い知見に学ばなかった結果としての戦争の悲惨に対する反省から、日本学術会議法に基づいて設置された、独立性の高いわが国の科学者の代表機関であり、政府に対する学術面での諮問機関である。

今般、内閣総理大臣が日本学術会議の推薦する新規会員候補者105名のうち6名を任命せず、しかしその理由を明らかにしない態度に固執していることは、上記の日本学術会議の存在意義を忘れ、ときの政権に都合の良い学者で同会議を構成し、学術面での諮問をアリバイ化させようとしているものと疑わざるを得ない。わが国の学問の自由、ひいてはわが国および関係諸国の平和は、この意味において今、再び危殆に瀕している可能性がある。

日本学術会議の組織や運営のあり方について、わが国アカデミアの内外から様々の批判があることは事実だが、それは別途解決されるべき問題である。ここにおいて、日本学術会議を行政改革の対象とするなどの方針が発表されているが、これは政権に楯突く者に対する陰険な見せしめであると同時に、問題の本質に対する悪質なすり替え、目眩しに他ならない。

神戸大学教職員組合は、自律的で自由闊達な各人の研究活動を通じてわが国における幅広い科学分野の学術水準を向上させ、わが国および世界の平和的発展に寄与することを使命とする大学関係者の労働組合として、自らの職場や仕事を守る観点からも、学問の自由が脅かされる状況を看過することはできない。

内閣総理大臣に対し、日本学術会議の指名する新規会員候補者105名のうち6名を任命しなかった理由の説明を要求する。